

石巻市こども若者委員による「こども若者の居場所」に関する提言書

この「こども若者の居場所に関する提言書」は、令和7年11月30日に開催した「いしのまき こども若者フェスティバル 2025」の意見交換会をもとに、石巻市こども若者委員が作成しました。

① “居場所” とは

そもそも“居場所”は手段であり、目的は、「健やかに生きる」ことだと考えます。居場所があることで、自分を好きになることができると思います。また、場所でも、場所じゃなくても居場所であり、居場所について考えるときは、ハードも、ソフトも大切で、居場所をつくる「人」が重要で、たくさんあるとよいと思います。

②居場所に来れる「きっかけ」づくり

ハードルを下げるきっかけ、興味を持てる価値のあるきっかけがあるとよいと思います。わからない、知らないといった不安が多いと来れないと思うので、まず「楽しそう!」「ここにしかないものがある」と思ってもらえるきっかけが大切です。また、未完成で自分で行けるとわくわくすると思います。

③地域全体の受け皿

いまの石巻地域の現状として、地域の受け皿はあるかもしれないけど、こども若者がそれを見つけられないことが課題だと思います。また、なにか実践に取り組んでいる若者同士のつながることができる場所がない、若者がなにかやろうとしても、信頼や理解を得ることなどハードルが高いということも課題だと思います。

④ユースセンター

居心地がいい、何をしても、しなくてもいいと思える心と体の居場所が必要だと思います。気軽にたむろできる場、帰ってこられる場、全員参加型でみんなで作る場、お金を使わずに過ごせる場といった視点が大切だと思います。また、年齢差があると意見がいえないので、サポートが必要だと思います。廃校や空き家、公民館などあるものを活用するアイデアもあると思います。交通アクセスの課題があるので、ミヤコーバスなどにも協力してもらえるとよいと思います。

⑤若者の一歩

若者が一歩を踏み出すためには、失敗してもいい居場所があること、そして大人が子どもに力を借りる、信じるという視点をもつこと、こども若者が勢いに乗りやってみる、大人の役割をこども若者が奪っていくという気持ちが必要だと思います。